

- 1 百人一首大会で、ぼくは初めて優勝した。けれど決勝の相手のひろとは、熱があるのにむりをして出ていたらしい。賞状を受け取るときも、ぼくは、せきこむひろとの赤い顔ばかり思い出していた。家に帰っても、優勝したことを自分から話す気になれなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① もやもや と 心配
- ② もやもや と ほこらしさ
- ③ うれしさ と 心配
- ④ うれしさ と ほこらしさ

こたえ

- 2 お気に入りのパーカーを、姉がだまって着て出かけていた。帰ってきたら文句を言ってやる、と待っていたのに、姉はげんかんで「これ、友だちにすごくほめられたよ。どこで買ったの？」と言った。わたしは言いかけた文句を飲みこみ、少し胸をはって店の名前を教えた。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

わたしの 気持ちは、どう 変わりましたか。

- ① さびしさ → あきらめ
- ② さびしさ → ほこらしさ
- ③ いかり → あきらめ
- ④ いかり → ほこらしさ

こたえ

- 3 学芸会の配役が決まった。主役はりょうた、ぼくはナレーターだ。りょうたは台本をめくりながら、「こんなに覚えられるかな」とため息をついている。ぼくは、主役の倍もあるナレーターのせりふに、鼻歌まじりで線を引き始めた。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

りょうたと ぼくの 気持ちの 組み合わせに 近いものは どれ？

- ① りょうた=主役に なれて 得意／ぼく=はりきっている
- ② りょうた=覚えられるか 不安／ぼく=はりきっている
- ③ りょうた=覚えられるか 不安／ぼく=主役で なく がっかり
- ④ りょうた=主役に なれて 得意／ぼく=主役で なく がっかり

こたえ

1 こたえ：① もやもや と 心配

★線をひくところ（赤いことば）

百人一首大会で、ぼくは初めて優勝した。けれど決勝の相手のひろとは、熱があるのにむりをして出ていたらしい。賞状を受け取るときも、ぼくは、せきこむひろとの赤い顔ばかり思い出していた。家に帰っても、優勝したことを自分から話す気になれなかった。

手がかり：優勝したのに『自分から話す気になれなかった』＝うれしさやほこらしさではなく、すっきりしないもやもや／『ひろとの赤い顔ばかり思い出していた』＝熱をおして出た相手への心配。

2 こたえ：④ いかり → ほこらしさ

★線をひくところ（赤いことば）

お気に入りのパーカーを、姉がだまって着て出かけていた。帰ってきたら文句を言ってやる、と待っていたのに、姉はげんかんで「これ、友だちにすごくほめられたよ。どこで買ったの？」と言った。わたしは言いかけた文句を飲みこみ、少し胸をはって店の名前を教えた。

手がかり：はじめは『文句を言っ

3 こたえ：② りょうた＝覚えられるか 不安／ぼく＝はりきっている

★線をひくところ（赤いことば）

学芸会の配役が決まった。主役はりょうた、ぼくはナレーターだ。りょうたは台本をめくりながら、「こんなに覚えられるかな」とため息をついている。ぼくは、主役の倍もあるナレーターのせりふに、鼻歌まじりで線を引き始めた。

手がかり：

主役のりょうたは『こんなに覚えられるかな』とため息＝得意ではなく不安／ナレーターのぼくは長いせりふに『鼻歌まじり』で線を引く＝がっかりではなく、はりきっている。